

いわて道徳教育ガイドブック



MORAL EDUCATION GUIDE BOOK

「特別の教科 道徳」(道徳科)を要とした道徳教育の充実を目指して

教育活動全体を通じて行う道徳教育とは？
全体計画をどのように整備していけばいいの？
道徳科の授業づくりのポイントは何？
道徳科の評価をどのように進めるの？



先生方の疑問に具体的にお答えしながら、道徳教育について解説していきます！

令和2年3月

岩手県教育委員会

目次

はじめに

I 道徳教育の推進	2
1 道徳教育の目標	2
2 指導体制	2
3 教育活動全体を通じて行う道徳教育	3
II 道徳教育全体計画	4
1 全体計画	4
2 全体計画の別葉	4
3 年間指導計画	7
III 「特別の教科 道徳」(道徳科)	10
1 道徳教育と道徳科	10
2 道徳科の目標	11
3 授業づくりのポイント	14
4 学習指導過程例	18
IV 評価のポイント	21
1 道徳科における評価の考え方	21
2 具体的な評価の進め方	23
3 児童生徒の「困難さ」への配慮	24
4 通知票と指導要録	25
5 評価をする教師の心構え	25
V Q&A	26
VI 研究指定校の実践例	27
VII 道徳科で活用できる読み物資料	35

編集委員一覧

はじめに

グローバル化や情報化社会が急速に進展する中、新たな価値が生み出され、多様な価値観が交錯する未来社会を見据えたときに、人間としてよりよく生きるための基盤となる道徳性を養っていくことが一層重要になってきます。また、社会問題になっているいじめ防止の観点からも、社会性や規範意識、善悪を判断する力、思いやりや弱者へのいたわりなどの豊かな心を育む道徳教育の改善・充実が一層求められています。

こうしたことを背景に、平成27年3月27日に学習指導要領が一部改正され、「特別の教科 道徳」（道徳科）として、平成30年度から小学校、平成31年度（令和元年度）から中学校において、先行して全面実施を迎えました。

本県においては、新たに策定した「いわて県民計画（2019～2028）」と「岩手県教育振興計画」に基づき、一人ひとりが互いに支え合いながら、幸福を追求していくことができる地域社会の実現に向けて政策を推進しているところです。その中で、自他の生命を大切にし、他者の人権を尊重する「豊かな心の育成」を重要な柱として位置付けています。これからの岩手を創造する子供たちに必要な道徳性を育むために、各学校における道徳教育の充実は一層重要になってきます。

県教育委員会はこれまでに、平成26年度から岩手県道徳教育推進事業を展開し、研究指定校の成果を道徳教育啓発リーフレットとして普及してきましたが、このたび、新学習指導要領が全面実施を迎えるこの節目に、「いわて道徳教育ガイドブック」を作成しました。本ガイドブックでは、教育活動全体で行う道徳教育を推進する上でのプロセスや道徳科の授業づくりのポイント、そして評価の考え方や進め方等について、先生方の疑問や悩みに寄り添いながら解説していくQ&A形式で構成しました。

各学校においては、「特別の教科 道徳」（道徳科）を要として教育活動全体で行う道徳教育の一層の充実に向け、教職員全員の共通理解を図るツールとして、本ガイドブックを役立てていただきますことを心から期待します。

令和2年3月 岩手県教育委員会

I 道徳教育の推進

1 道徳教育の目標

道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、自己（人間として）の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標とすること。

小・中学校学習指導要領「第1章 総則」第1の2の(2)の3段目



Q 「道徳性」とは何ですか？

A よりよく生きるための営みを支える基盤となるものであり、人間としての本来的な在り方やよりよい生き方を目指して行われる道徳的行為を可能にする**人格的特性**であり、**人格の基盤**をなすものです。

道徳教育で育む資質・能力は、ずばり「道徳性」です！



2 指導体制

1 各学校においては、第1の2の(2)に示す道徳教育の目標を踏まえ、道徳教育の全体計画を作成し、校長の方針の下に、道徳教育の推進を主に担当する教師（以下「道徳教育推進教師」という。）を中心に、全教師が協力して道徳教育を展開すること。

小・中学校学習指導要領 第1章第6の1の前段



Q 「道徳教育推進教師」が全てやるのですか？

A 道徳教育推進教師だけで、道徳教育を行うものではありません。道徳教育推進教師一人が計画するものでもありません。

学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育を推進する上で中心となるのが「道徳教育推進教師」です。

全教師の参画、分担、協力の下に、教職員全員で計画し、推進することが大前提となります。



3 教育活動全体を通じて行う道徳教育



Q どうやって教育活動全体で進めるのですか？

A 道徳教育は、日常の様々な教育活動において行われています。子供の成長を促そうと教師がかける言葉には、実は、**様々な道徳的価値**が込められています。



いじめをしてはいけません！

せっかく同じクラスになったのだから、仲の良い学級にしていこう！
よりよい学校生活、集団生活の充実

自分が差別されたらどんな気持ちになるか考えよう！
公正、公平、社会正義

友達同士なかよくしましょう！
友情、信頼

違う考えでもよく聞いて、相手の立場を考えよう！
相互理解、寛容

これを、教職員全員で意識して行うかがポイントになります。学校がどんなことを大切にして道徳教育を進めているかによって、**教師の声かけが意図的に変わってきます**。

例えば、「命を大切にする」ことに重点を置いている学校では…。

生命を大切にしましょう。
生命の尊さ

早寝、早起き、朝ごはん、しっかりできていますか。
節度、節制

朝顔の種をまきますよ。何色の花が咲くかな。
自然愛護

おじいちゃん、おばあちゃんに手紙を書きましょう。
感謝

絵を描くのが上手だね。
個性の伸長

困難を乗り越えて、希望をもって生きていきましょう。
よりよく生きる喜び

関連のある内容項目と結び付けて意図的に指導するようになります。

Ⅱ 道徳教育全体計画

1 全体計画

なお、道徳教育の全体計画の作成に当たっては、児童（生徒）や学校、地域の実態を考慮して、学校の道徳教育の重点目標を設定するとともに、道徳科の指導方針、第3章特別の教科道徳の第2に示す内容との関連を踏まえた各教科、（外国語活動、）総合的な学習の時間及び特別活動における指導の内容及び時期並びに家庭や地域社会との連携の方法を示すこと。

小・中学校学習指導要領「第1章 総則」第6の1の後段



Q 「道徳教育の全体計画」とは何ですか？

A 学校における道徳教育の**基本的な方針**を示すとともに、**道徳教育の目標を達成するための方策を総合的に示した教育計画**です。

教育活動全体で道徳教育を進めるために、どのようなことを重点的に指導するのか、各教育活動とどのような関連を図るのか、家庭や地域社会との連携をどう進めていくのかなど、全教師による一貫性のある道徳教育を組織的に展開するための重要な計画となります。



2 全体計画の別葉

全体計画を一覧表にして示す場合は、必要な各事項について文章化したり具体化したりしたものを加えるなどの工夫が望まれる。例えば、各教科等における道徳教育に関わる指導の内容及び時期を整理したもの、道徳教育に関わる体験活動や実践活動の時期等が一覧できるもの、道徳教育の推進体制や家庭や地域社会等との連携のための活動等が分かるものを**別葉**にして加えるなどして、年間を通して具体的に活用しやすいものとするのが考えられる。

小・中学校学習指導要領解説 総則編 第6節1（2）イ



Q どうして別葉を作成する必要があるのですか？

A 全体計画の中に、具体的な指導内容や時期等については盛り込むことは難しいです。そのため、これらを一覧にして整理した別葉の作成が必要になるのです。

別葉による計画の作成は、まさに**カリキュラム・マネジメントの一環**と言えます。



道徳教育の全体計画例

学習指導要領解説総則編 参照
小:P130~131 中:P133~134

様式に定めはありませんが、「学習指導要領解説 総則編」で示している「基本的把握事項」と「具体的計画事項」を含めることが望めます。

- ※…基本的把握事項
- …具体的計画事項

令和〇年度 〇〇学校 道徳教育全体計画

※教育関係法規の規定 ※教育行政の重点施策

関係法規等

日本国憲法
教育基本法
学校教育法
その他の教育関係法規
いじめ防止対策推進法
学習指導要領

※時代や社会の要請や課題

時代や社会の要請

予測困難な時代の到来の中で、自ら課題一人が解決策を見出し、人生や社会を創造し、働きながら生きていくような資質・能力を育てる。

○学校の教育目標

学校教育目標

- ・すすんで考える子ども
- ・みんなを思いやる子ども
- ・たくましい子ども

※学校や地域社会の実態と課題 教職員や保護者の願い

児童の実態

- 明るく素直な子どもが多い。
- 学校が楽しいと思っている子どもが多い。
- 互いに認め合いおうとする気持ちがある。
- 目的が明確になると集中して取り組む。
- ▲根気強く取り組もうとする気持ちが弱い。
- 自己肯定感が低い。

地域の実態と保護者・教師の願い

- ・生命を大事にする子どもになってほしい。
- ・明るい子どもになってほしい。
- ・優しい子どもになってほしい。
- ・たくましくなってほしい。

○外国語活動における道徳教育

外国語活動における道徳教育

- ・外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深める。
- ・相手に配慮する。

各教科における道徳教育

国語

- ・日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養うこと及び言語感覚を豊かにする。
- ・国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

社会

- ・多角的な思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、我が国の国土と歴史に対する愛情を育む。
- ・国際社会に生きる平和で民主的な国家の形成者としての自覚をもち、自他の人格や尊厳、社会的義務や責任を重んじ、公正に判断しようとする態度や能力などの公民としての資質・能力の基礎を養う。

算数

- ・日常の事象を数理的に捉え見通しをもち筋道を立てて考察する力を育成する。
- ・算数で学んだことを生活や学習に活用しようとする態度を育成する。

理科

- ・栽培や飼育などの体験活動を通して自然を愛する心情を育てる。
- ・見通しをもって観察、実験を行うことや、問題解決の力を育てる。

生活

- ・自分自身、身近な人々、社会及び自然と直接関わる活動や体験を通して、自然に親しみ、生命を大切にすると自然との関わりに関心をもち、自己のよさや可能性に気付くなど自分自身について考えさせる。

音楽

- ・音楽を愛好する心情や音楽に対する感性を育み、音楽科の学習指導を通して培われる豊かな情操を養う。

図画工作

- ・つくりだす喜びを味わうようにするとともに、造形的な創造による豊かな情操を養う。

家庭

- ・生活をよくしようとして工夫する資質・能力を育てること。
- ・家庭生活を大切にすることを育むこと。

体育

- ・自己の課題の解決に向けて運動したり、集団で楽しくゲームを行ったりすること。

外国語

- ・外国語の背景にある文化に対する理解を深める。
- ・他者に配慮する。

○各学団(学年)の重点目標

各学団の重点

第1学年及び第2学年

- ・様々な場面での自分の特徴に気付く、そのよさに気付く。
- ・身近にいる人に温かい心で接し、親切にする。
- ・生きることのすばらしさを生命を大切にすること。

第3学年及び第4学年

- ・自分の性格や特徴に気付く、長所を伸ばしていく。
- ・相手のことを思いやり、進んで親切にする。
- ・生命の尊厳や偉大さを知り、自己や身の回りの生命あるものを大切にすること。

第5学年及び第6学年

- ・自分の性格や特徴を知り、課題を踏まえないながら長所を伸ばしていく。
- ・誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立てて親切にする。
- ・生命が多岐の生命のつながりの中にあるかけがえのないものであることを理解し、生命を尊重する。

重点内容項目

A 個性の伸長
B 親切、思いやり
D 生命の尊厳

○道徳科の指導の方針

道徳教育における指導方針

- 道徳教育全体計画別業を定期的に見直し、年間指導計画の改善につなげる。
- 別業の職員室への掲示(各学年で状況をチェック)・年間指導計画に付箋紙等で改善点を添付
- 重点内容項目「A個性の伸長」「B親切、思いやり」「D生命の尊厳」・各教科等及び行事等との関連を図り、全教職員で計画的かつ意図的に指導を行う。
- 家庭や地域との連携
・年に一度、道徳教育について家庭や地域に公開する機会を設定する。

○特別活動における道徳教育

特別活動における道徳教育

- ・多様な他者の意見を尊重しようとする態度を育てる。
- ・自己の役割や責任を果たして生活しようとする態度を育てる。
- ・よりよい人間関係を形成しようとする態度を育てる。
- ・目標をもって諸問題を解決しようとする態度を育てる。
- ・自己のよさや可能性を大切にして集団活動を行う態度を育てる。

○各教科における道徳教育の指導の方針

道徳科の指導方針

【目標】よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、各教科等及び各種教育活動と効果的に関連させながら、道徳的諸価値について自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を充実させる。

【指導のねらいの明確化】

- ねらいと指導の重点の明確化
 - ・取り上げる内容項目を把握する。
 - ・子どもの成長と課題に応じて重点化を図る。
- 教材の吟味
 - ・教科書、若手県版先人副読本等の効果的に活用する。
 - ・道徳科の授業の確実な実施
 - 「第〇回 道徳の学習」の板書への提示
 - 2学期に一回の交流授業の実施

【評価の充実】

- 評価の視点
 - ・子どもたちが、より多面的・多角的な見方へと発展しているか
 - ・道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか
- 評価方法の工夫
 - ・道徳ノート、子どもの発言の記録を蓄積する。
- 評価についての共通理解
 - ・道徳の評価について校内研修を年1回設定する。

【授業改善の充実】

- 重点内容項目にかかわる道徳科の授業研究会

○家庭・地域社会(他の学校や関係機関)との連携の方法

家庭・地域社会との連携

- ・家庭や地域と道徳(教育)の重点を共有し、連携・協働の体制に努めること、道徳教育を一層充実させる。
- ・参観日の道徳授業公開(9月)
- ・校報及び学年通信による啓発
- ・PTA総会及び学年・学級懇談会等での情報交換
- ・読み聞かせボランティアとの連携
- ・家庭や地域と一体となった実践活動
- ・幼稚園・保育園、中学校との連携

○学級・学校の環境整備

学級・学校の環境整備

- ・児童の豊かな心を育て、道徳性の育成を図るよう、人的、物的環境の整備を進める。
- ・言語環境の充実(言葉遣い)
- ・学年掲示版コーナーの充実
- ・学校図書館の整備
- ・花壇等植物の環境
- ・整理整頓の徹底
- ・ふるさとコーナーの設置

○道徳教育の推進体制

推進体制

```

    graph TD
      A[校長(方針)] --> B[副校長]
      B --> C[道徳教育推進委員会]
      C --> D[低学団]
      C --> E[中学団]
      C --> F[高学団]
      C --- G[道徳教育推進教師 教務主任 研究主任 生徒指導主事 保健主事 養護教諭]
    
```

推進体制が入っていますか？

道徳教育の全体計画 別葉例

(1) 内容項目を網羅した例

例えば、6月は重点内容項目「親切、思いやり」を扱う道徳科の授業がありますね。他の教科等を見ると「親切、思いやり」に関わる教育内容があります。林間学校の体験や総合的な学習の時間と関連させた指導ができそうですね。



道徳教育全体計画 別葉 5年

重点内容項目		A 個性の伸長	B 親切、思いやり	D 生命の尊さ
4月		5月	6月	7月
道徳科	<ul style="list-style-type: none"> ●「人生」という教科書 (A 善悪の判断、自律、由と責任) ●ぬきすてられたくつ (A 節度、節制) ●電池が切れるまで (D 生命の尊さ) 	<ul style="list-style-type: none"> ●お客様 (C 規則の尊重) ●友のしょうぞう画 (B 友情、信頼) ●虫の本-野村胡堂-(A 個性の伸長) ※若手県版道徳資料集 	<ul style="list-style-type: none"> ●フジの新しいおひれ (D 自然愛護) ●もったいない (D 自然愛護) ●台湾からの転入生 (B 親切、思いやり) ●言葉のおくりもの (B 友情、信頼) 	<ul style="list-style-type: none"> ●世界にはばたく「航平ノート」 (A 希望と勇気、努力と強い意志) ●ぼくがいるよ (C 家族愛、家庭生活の充実)
国語	<ul style="list-style-type: none"> ●ふるさと D 感動、畏敬の念 ●あめ玉 B 親切、思いやり ●なまえつけてよ D 自然愛護 ●春の空 C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度 D 感動、畏敬の念 ●新聞を読む A 真理の探究 	<ul style="list-style-type: none"> ●新聞を読む ●漢字の成り立ち C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度 ●筆者の考えの進め方をとらえ、自分の考えを表現しよう ●見立てる、生き物は円柱形 C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度 ●古典の世界 C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度 ●さいて、さいて、さいてみよう B 礼儀 	<ul style="list-style-type: none"> ●さいて、さいて、さいてみよう ●歌謡 B 礼儀 ●本は友達 ●千年の釘にいびむ A 真理の探究 C 勤労、公共の精神 C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度 	<ul style="list-style-type: none"> ●夏の夜 C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度 D 自然愛護 D 感動、畏敬の念 ●次への一歩-活動報告書 C 勤労、公共の精神 C よりよい学校生活、集団生活の充実
総合的な学習の時間			●調べよう!自然調査隊 B 親切、思いやり D 自然愛護 D 生命の尊さ	
特別活動	<ul style="list-style-type: none"> ●始業式 A 希望と勇気 B 礼儀 ●交通安全教室 A 節度、節制 C 規則の尊重 D 生命の尊さ 	<ul style="list-style-type: none"> ●運動会 A 努力と強い意志 C 勤労、公共の精神 	<ul style="list-style-type: none"> ●林間学校 A 自律、自由責任 B 親切、思いやり C 集団生活の充実 D 自然愛護 	<ul style="list-style-type: none"> ●終業式 A 個性の伸長 B 礼儀 ●陸上記録会 A 努力と強い意志 B 礼儀 C 勤労、公共の精神
学級活動	<ul style="list-style-type: none"> ●学年の目標を決めよう ●5年生になって係をつくらう C よりよい学校生活、集団生活の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ●運動会を成功させよう A 努力と強い意志 ●友だち同士の言葉遣い B 友情、信頼 	<ul style="list-style-type: none"> ●雨の過ぎ方を工夫しよう ●楽しい林間学校にしよう B 親切、思いやり D 自然愛護 	<ul style="list-style-type: none"> ●1学期のまとめの会をしよう ●1学期の反省とまとめ ●夏休みの計画を立てよう A 節度、節制
クラブ児童会活動	<ul style="list-style-type: none"> ●1年生を迎える会 	<ul style="list-style-type: none"> ●ボランティア集会 A 個性の伸長 B 親切、思いやり C 勤労、公共の精神 	<ul style="list-style-type: none"> ●陸上記録会激励会 	
地域・家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ●家庭訪問 ●授業参観 		●地区別集団下校	

重点内容項目に関連する内容を朱書きにすると結び付けやすくなります。

(2) 重点内容項目に絞った例

重点内容項目に絞って、それぞれにおいて関連のある教育内容の配列を計画するのも工夫の一つです。対象を定めて、重点化を図って道徳教育を推進することができます。



道徳教育全体計画 別葉 5年

重点内容項目ごとに、関連する教育内容を整理します。		重点内容項目	A 個性の伸長	B 親切、思いやり	D 生命の尊さ			
		4月	5月	6月	7月	8・9月	10月	11月
A 個性の伸長	道徳		虫の本-野村胡堂-(保)心の発達				日本の「まじかの神様」	
	教科							(図)でこぼこ広場に絵の具が走る
	総合的な学習の時間						調べよう!環境問題調査隊	
	特別活動		(児)ボランティア集会		(行)終業式		(行)学習発表会	(児)自分のよいところを見つけよう
地域との連携								
B 親切、思いやり	道徳			台湾からの転入生				くずれ落ちたダンボール箱
	教科	(国)あめ玉(音)Believe					(社)自動車づくりにはげむ人々	(算)古くて新しい路面電車
	総合的な学習の時間		調べよう!自然調査隊					
	特別活動		(児)ボランティア集会	(行)林間学校(学)楽しい林間学校にしよう				(学)友達へのメッセージを書こう
地域との連携				地区別集団下校				

3 年間指導計画

1 各学校においては、道徳教育の全体計画に基づき、各教科、(外国語活動、)総合的な学習の時間及び特別活動との関連を考慮しながら、道徳科の年間指導計画を作成するものとする。なお、作成に当たっては、第2に示す(各学年段階の)内容項目について、(相当する)各学年において全て取り上げることとする。その際、児童(生徒)や学校の実態に応じ、2学年間(3学年間)を見通した重点的な指導や内容項目間の関連を密にした指導、一つの内容項目を複数の時間で扱う指導を取り入れるなどの工夫を行うものとする。

小・中学校学習指導要領「第3章 特別の教科 道徳」第3の1



Q どうして、道徳教育の全体計画に基づいて、年間指導計画を作成しなければならないのですか？

A 年間指導計画は、道徳科の指導が、児童生徒の発達の段階に即して計画的、発展的に行われるように組織された全学年にわたる年間の指導計画です。

年間指導計画では、**各教科等との関連を考慮して、主題の配列や学習指導過程等を示す**ことが望まれます。各教科等との関連や主題の配列は、全体計画の別葉によって計画されていますから、道徳教育の全体計画に基づいて作成されることになります。



Q 年間指導計画には、どんなことを盛り込むのですか？

A 年間指導計画は、各学校において道徳科の授業を計画的、発展的に行うための指針となるものです。年間指導計画は本来、各学校が創意工夫をして作成するものですが、年間指導計画の意義に基づき、特に下記の内容を明記しておく必要があります。



<年間指導計画の内容>

- 1 各学年の基本方針
- 2 各学年の年間にわたる指導の概要
 - 指導の時期 主題名 ねらい 教材
 - 主題構成の理由 学習指導過程と指導の方法
 - 他の教育活動等における道徳教育との関連 その他

年間指導計画例

(1) 基本的な事項を盛り込んだ年間指導計画の例(小学校 第4学年)

主題名	みんなが守るきまりとは	指導時期	第14回 9月 第2週
教材名	雨のバス停留所で (出典:「私たちの道徳 小学校3・4年」文部科学省)		
内容項目	C(11)規則の尊重		
ねらい	約束やきまりが必要な理由を考え、進んでこれを守ろうとする態度を育てる。		
主題構成の理由	順番を守ることがなぜ大切なのか、きまりがなぜ必要なのかを考えるを通して、約束やきまりの必要性や重要性を認識し、周囲の人々への配慮や思いやりをもって集団や社会のことを考え、約束や社会のきまりを守ろうとする態度を育てていくようにしたい		
展開の概要	<p>1 決まりをやぶってしまった経験について話し合う。</p> <p>○分かっていて、ついきまりをやぶってしまったことはないか。</p> <p>2 「雨のバス停留所」を読んで話し合う。</p> <p>○バスが見えたとき、よし子が駆け出してバス停の先頭に並んだのはどのような思いからか。</p> <p>○六番目に並んで待っているよし子は、どのようなことを考えているか。</p> <p>◎知らぬふりをして窓の外を見ているお母さんの横顔を見ながら、よし子はどのようなことを思ったのか。</p> <p>○身の回りには、どのようなきまりがあるか。それはなぜあると思うか。</p> <p>3 教師の話を書く。〈東日本大震災の様子〉</p> <p>○地域の方々みんなで約束やきまりを作って、それを守って、みんなで助け合って乗り越えた。</p>		
他の教育活動との関連	学級活動「廊下歩行を守ろう」 国語「くらしやすい未来に向けて発信しよう」 総合的な学習の時間「地域についてもっと知ろう」		
いわでの復興教育	【かかわる】地域とのつながり		

学習指導過程が計画されることによって、全ての教師が計画的に授業を展開することができるようになります。

道徳教育の全体計画の別葉に基づいて、この時期に関連する教育内容等を記載します。

(2) 他教科等との関連を明確にした年間指導計画の例

遠野市立小友小学校			
第5学年 道徳 年間指導計画			
1 主として自分自身に関すること			No.6
内容項目	1-(6)個性の伸長		
「いわでの復興教育」との関連			
教育的価値	具体的項目	取り扱う資料名	
1【いきる】	③【価値ある自分】	感動したこと、それがぼくの作品	
2【いきる】	④【夢や希望の大切さ】	天女、再び宇宙へ	
【指導構想図】			
復興教育と関連する学習活動			
体験活動	道徳の時間	各教科等の学習	日常指導・その他
(6月)(12月) ○伊藤シェフとの交流学習会 ○伊藤シェフとの親子料理教室	(11月) ◇「感動したこと、それがぼくの作品」	(11月) ○園工「表現にこめた思い」(鑑賞)	○自己紹介カード ○帰りの会「今日のキラリ」
(8月) ○横澤さんとの交流学習会	(3月) ◇「天女、再び宇宙へ」 1-(6)個性伸長	(3月) ○国語「伝記を読もう」	○読書活動(伝記等)
回 24	月 11	週 4	
主題名	自分のよさを伸ばす	内容項目	1-(6)個性伸長
資料名	感動したこと、それがぼくの作品	出典	東京書籍
主題構成の理由	よさを伸ばしていく過程においてさまざまな障害や困難があったとしても、信念をもち努力を忘れないことで、「自分はこうありたい」という理想に近づいていくことができることに気づかせ、自分のよさや得意なことを伸ばしていこうとする態度を、この資料を通して考えさせたい。		
「いわでの復興教育」との関連 1【いきる】 ③【価値ある自分】			
ねらい	自分のよさや得意なことを伸ばしていこうとする態度を育てる。		
展開の概要	<p>1 作品を見ながら、ピカソについて知っていることを発表する。</p> <p>2 ピカソの気持ちを考えながら、ピカソの生き方について話し合う。</p> <p>(1) 宮廷画家になることを勧められたときのピカソの気持ちについて話し合う。</p> <p>(2) パリで苦しい日々を過ごしていたピカソの気持ちについて話し合う。</p> <p>(3) 戦争中・戦争後のピカソについて話し合う。</p> <p>3 学習したことを振り返る。</p> <p>4 教師の話を書く。</p>		

このように、その学校で重点を置いている教育等に応じて各学校が活用しやすいものに工夫をしていきましょう。



(平成 25 年度 道徳教育啓発リーフレットから抜粋)

作成に当たっての留意点

年間指導計画を活用しやすいものにし、指導の効果を高めるために、特に創意工夫すべきこととして次のことが挙げられます。

- (1) 主題の設定と配列を工夫する
- (2) 計画的、発展的指導ができるように工夫する
- (3) 重点的な指導ができるように工夫する
- (4) 各教科等、体験活動等との関連的指導を工夫する
- (5) 複数時間の関連を図った指導を取り入れる
- (6) 特に必要な場合には他学年段階の内容を加える(小学校)
- (7) 計画の弾力的な取扱いについて配慮する
- (8) 年間指導計画の評価と改善を計画的に行うようにする

学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 参照

小:P74~77

中:P72~75



Q 内容項目は全て指導しなければなりませんか？

A 内容項目は、発達段階に応じて、相互の関連性と発展性を考慮して整理されています。

小学校第1・2学年は **19項目**、

小学校第3・4学年は **20項目**、

小学校第5・6学年と中学校は **22項目**です。

どれも、児童生徒の道徳性を養うために必要不可欠な内容ですので、**全ての内容項目について適切に指導しなければなりません。**



Q 年度途中で、担任の判断で年間指導計画を変更してもよいのですか？

A 年間指導計画は、学校の教育計画として意図的、計画的に作成されたものですから、変更や修正を行う場合は、児童生徒の道徳性を養うという観点から、より大きな効果が期待できるという判断を前提として、学年などによる検討を経て校長の了解を得ることが必要です。**個人の判断だけで不用意な変更や修正が行われるべきではありません。**

そして、変更した理由を備考欄などに記入し、今後の検討課題にすることが大切です。



Ⅲ 特別の教科 道徳（道徳科）

1 道徳教育と道徳科

学校における道徳教育は、特別の教科である道徳（以下「道徳科」という。）を要として学校の教育活動全体を通じて行うものであり、道徳科はもとより、各教科、（外国語活動、）総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて、児童（生徒）の発達段階を考慮して、適切な指導を行うこと。

小・中学校学習指導要領「第1章 総則」第1の2の(2)の2段目



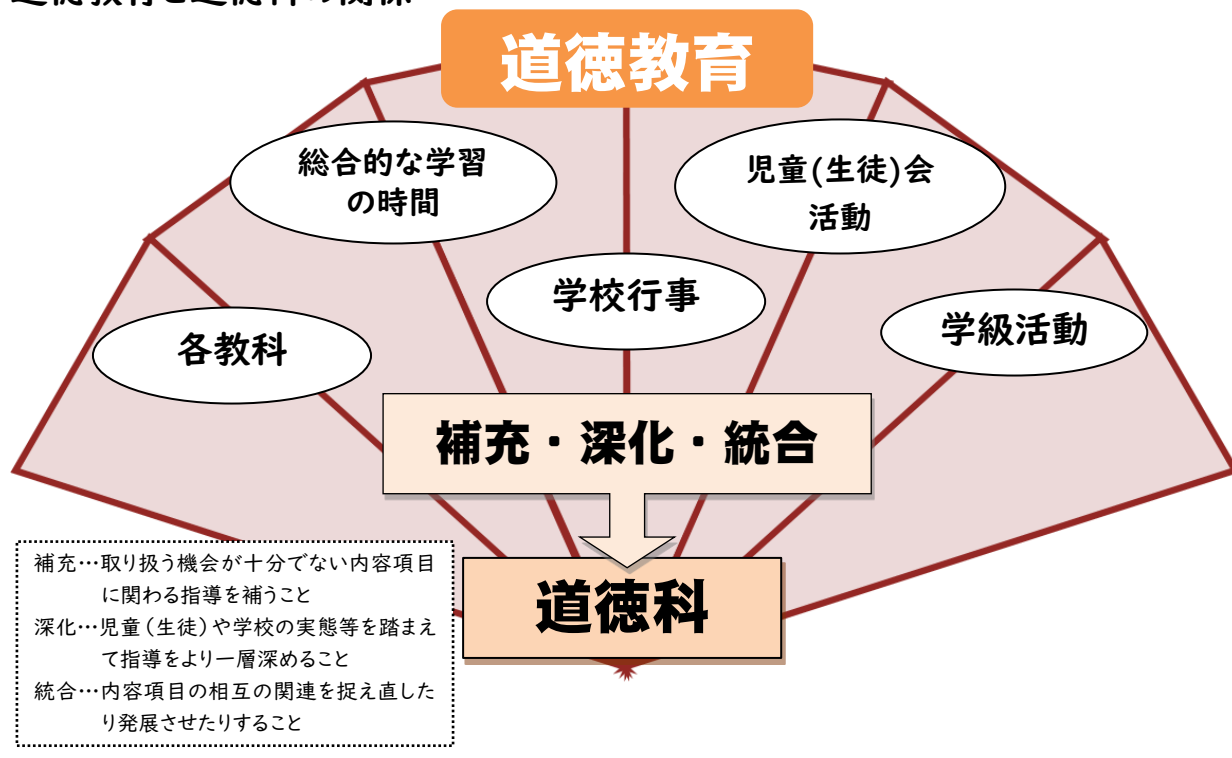
Q 「道徳科を要として」とは、どういうことですか？

A 新学習指導要領においても、これまでの「道徳の時間」を要として学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の基本的な考え方を引き継いでいます。

扇の「要」が要所を押さえて中心で留めるように、道徳科が、学校の教育活動全体における**道徳教育の中心的な役割**を担います。



道徳教育と道徳科の関係



2 道徳科の目標

第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を(広い視野から)多面的・多角的に考え、自己(人間として)の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

小・中学校学習指導要領「第3章 特別の教科 道徳」第1



Q 道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度とは、具体的にどのようなものですか？

A 道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度は、道徳性を構成する**諸様相**であり、内面的資質を指しています。

道徳教育を通じて「道徳性」を養っていくために、要となる道徳科においては、道徳性を構成する諸様相を育てることを目標とします。ですから、**授業のねらいはこれら諸様相に基づいて設定すること**になります。



「道徳的判断力」

それぞれの場面において善悪を判断する能力

「道徳的心情」

道徳的価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、悪を憎む感情

「道徳的実践意欲」

道徳的判断力や道徳的心情を基盤とし道徳的価値を実現しようとする意志の働き

「道徳的態度」

道徳的判断力や道徳的心情に裏付けられた具体的な道徳的行為への身構え

POINT①

これらの諸様相には序列や段階はありません。

POINT②

内面的資質ですので、実際の行為までをねらいとはしていません。

POINT③

どの諸様相をねらいとするかによって授業の展開と発問が変わってきますよ。



今日の授業で挨拶の大切さを学んだね！
さあ、今日から挨拶を進んでやるんだよ！



えっ！挨拶することが今日の道徳科の目的なの？
道徳科では、道徳的行為まで求めているはずだよ。

第1章総則の第1の2の(2)に示す道德教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道德性を養うため、道德的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を(広い視野から)多面的・多角的に考え、自己(人間として)の生き方についての考えを深める学習を通して、道德的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

小・中学校学習指導要領「第3章 特別の教科 道德」第1



Q それでは、上記の下線のところは何を示しているのですか？

A この下線のところは、道德科で目指す**児童生徒の学習活動を示しています。**

ですから、道德科では、道德性を構成する諸様相を育てることに向けて、

- ア 道德的諸価値についての理解を基に、
 - イ 自己を見つめ、
 - ウ 物事を(広い視野から)多面的・多角的に考え、
 - エ 自己(人間として)の生き方についての考えを深める
- 授業をしていくことが大切になってきます。



ア 道德的諸価値についての理解を基に

道德的価値の意義及びその大切さについて理解することです。特定の道德的価値を絶対的なものとして指導したり、道德的価値のよさや大切さを観念的に理解させたりする学習に終始することのないようにしましょう。

<価値理解>

- ・人間としてよりよく生きる上で、**道德的価値は大切なことである**という理解

<人間理解>

- ・道德的価値は大切であっても、なかなか**実現することができない人間の弱さ**などの理解

<他者理解>

- ・道德的価値を実現したり、実現できなかったりする場合の**感じ方、考え方は多様である**ということを前提とした理解

目標に向かって、がんばってやり遂げたときは、確かにいい気持ちになるなあ。<価値理解>



正しいことをやるときにも、人によっていろいろな考え方があるなあ。<他者理解>

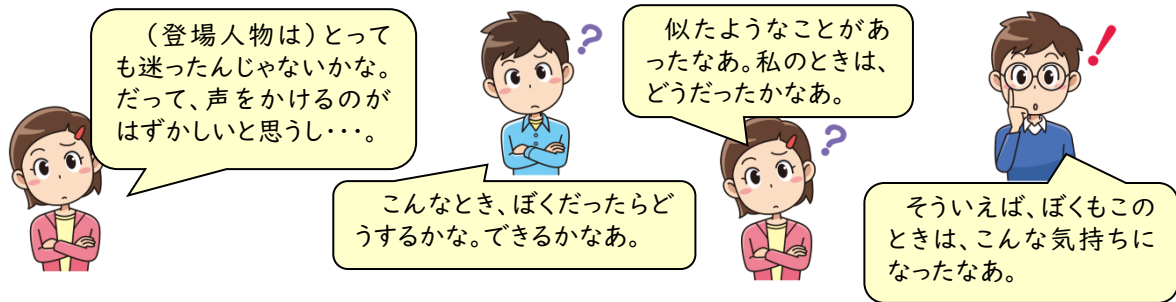


困っている人に親切にするのは大事だけれど、自分から声をかけるのは、なかなかできないよなあ。<人間理解>

イ 自己を見つめ

人間としてよりよく生きる上で大切な道徳的価値を、自分のこととして感じたり考えたりすることです。

- ・教材の登場人物に自分を置き換えて考える。
 - ・教材の問題点等を自分事として受け止めて考える。
 - ・日常生活や学校生活等を想起しながら考える。
 - ・自分の生活を見つめ、振り返りながら考える。
 - ・自分だったらどうするかなど考える。
- など



ウ 物事を(広い視野から)多面的・多角的に考え

多様な価値観の存在を前提にして、他者と対話したり協働したりしながら、物事を(広い視野から)多面的・多角的に考えることです。

- ・ねらいとする道徳的価値の様々な面を考える。
 - ・道徳的価値を支える様々な根拠を考える。
 - ・様々な登場人物の立場で考える。
 - ・焦点を絞って考えたり、視野を広げて考えたりする。
 - ・時間の経過とともに変化する気持ちを考える。
 - ・人間の強さや弱さ等を捉えて考える。
- など



エ 自己(人間として)の生き方についての考えを深める

道徳的価値の理解を自分との関わりで深めたり、自分自身の体験やそれに伴う感じ方や考え方などを確かに想起したりするなど、自己の生き方や人間としての生き方についての考えを深めることです。

- ・他者の多様な感じ方や考え方に触れることで、自分の特徴などを知り、伸ばしたい自己を深く見つめる。(小学校)
 - ・生き方の課題を考え、それを自己の生き方として実現しようとする思いや願いを深める。(小学校)
 - ・人生の意味をどこに求め、いかによりよく生きるかという人間としての生き方を主体的に模索する。(中学校)
 - ・人間についての深い理解を鏡として行為の主体としての自己を深く見つめる。(中学校)
- など



3 授業づくりのポイント

(1) 授業づくりのプロセス

1 わらいの検討

- 各学校の重点を踏まえて作成した年間指導計画をもとに、指導の内容と教材を確認します。
- 道徳科の内容項目についての理解を深めるために、それぞれの内容項目について特に大切にしたいことを明らかにします。

まずは、「学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」で確認しましょう。
小学校:P28~71
中学校:P25~69

2 指導の重点の明確化

児童生徒のよさや課題を明らかにして、授業で何を考えさせたいのか、その方針を焦点化する「指導観」(価値観、児童生徒観、教材観)を明確にします。

指導観

価値観

ねらいとする道徳的価値(指導内容)について、学習指導要領に基づき明確な考えをもつ。

児童生徒観

授業者の価値観に関する児童生徒のこれまでの学習状況や実態、本時で考えさせたいことを明らかにする。

教材観

使用する教材の特質やそれを生かす具体的な活用方法を明らかにする。

明確な指導観は、授業の骨格と言えます。指導観が明確になることで、筋の通ったぶれない授業を構想することができます。

3 教材の分析

授業者が児童生徒に考えさせたい道徳的価値に関わる事項がどのように含まれているかを吟味し、中心発問を設定していくことが大切です。

①教材を通読し、場面を押さえる

ここで、**中心発問**を設定します。

②ねらいとする道徳的価値について、最も考えさせたい場面を明らかにする

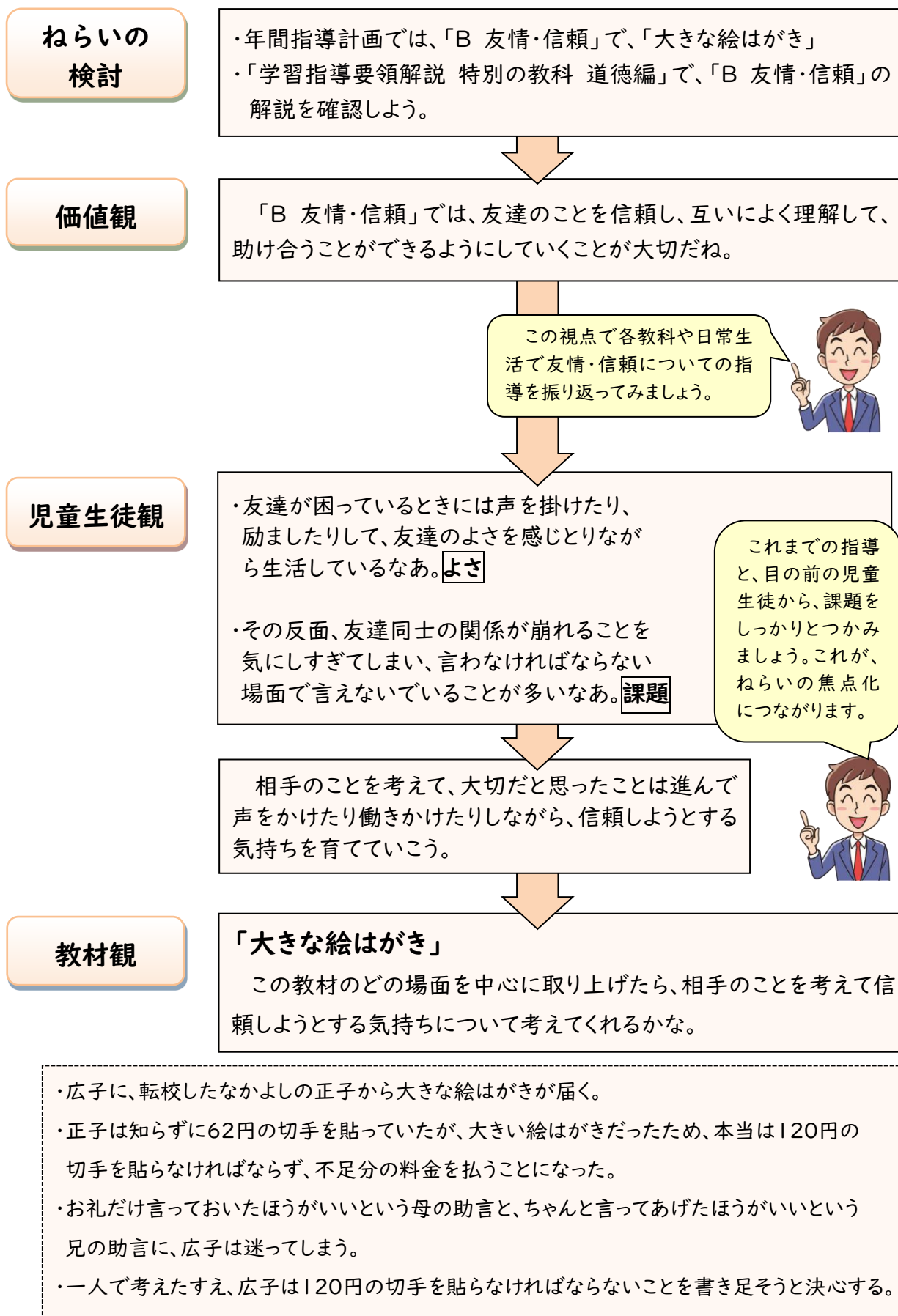
③中心発問の前後で考えさせることが有効と思われる場面(事象)を検討する

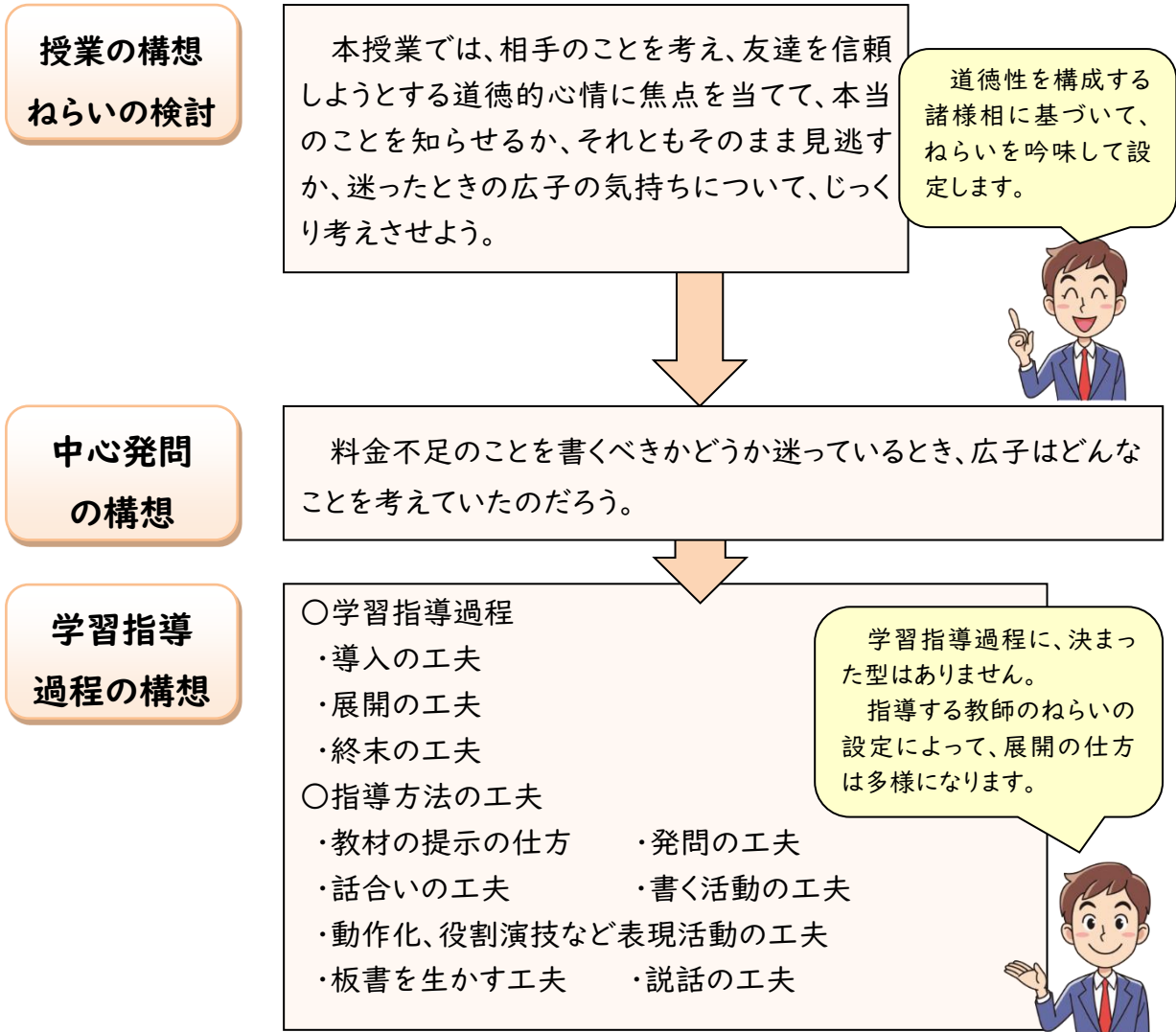
④予想される子どもの反応を予測し検討する

中心発問による学習が充実するために、その前後で児童生徒に考えさせたいことが有効と思われる場面や事象を明らかにして**基本発問**を設定します。

4 学習指導過程の構想

(2) 授業づくりのプロセス例(小学校第4学年)





(3) 多様な方法を取り入れた指導

道徳科の特質を生かすことに効果があると判断した場合には、多様な方法を活用して授業を構想することが大切です。問題解決的な学習や体験的な学習は、あくまで多様な方法の中からの例示であり、指導方法を明確に類型化するものではありません。効果的な方法を計画する上での参考にしましょう。

<問題解決的な学習>

児童生徒が生きるうえで出会うであろう様々な道徳的諸価値に根差した問題(道徳的問題)に対して、物事を多面的・多角的に考えながら問題場面における道徳的価値を考えていく学習。

<道徳的行為に関する体験的な学習>

道徳的行為に関する疑似体験的な活動(役割演技など)を取り入れ、実際の問題場面について実感を伴いながら、道徳的価値の意義などについて考えを深める学習。

<特別活動等の多様な体験活動を生かした学習>

体験活動の中で感じたことや考えたことを道徳科の話合いに生かすことで、児童生徒の関心を高め、道徳的実践を主体的に行う意欲や態度を育む学習。

(4) 複式指導における指導の工夫



Q 複式学級ではどのように指導していけばよいのですか？

A 複式学級における道徳科の授業では、一人ひとりの学びの状況をきめ細かに捉えて学習を展開することができるというメリットがあります。その一方で、多様な考えや感じ方にいかに触れさせていくかが課題として考えられます。複式学級の**メリットの部分**を**最大限に発揮して**道徳科の授業を進めましょう。



複式学級における授業の形態例

- ・学級を単式化した授業
- ・両学年とも道徳科での授業
- ・他教科との複式で授業を実施 など

工夫例

書く活動をずらして展開することで、直接指導と間接指導のバランスを図った指導ができました。

工夫例

年間指導計画を見直し、両学年で、同一の内容項目で配列したら、授業が展開しやすくなりました。

工夫例

人数が少なかったので、キャラクターを登場させて、児童生徒に触れさせたい道徳的価値を提示してみました。



工夫例

学習活動の「ずらし」を行わず、同時に授業を展開するようにしました。「わたり」の必要もなく、無理なく授業ができました。

工夫例

教材を事前に読ませておくことで、互いの教材の読み聞かせや範読の重なりをなくすことができました。

<複式学級の道徳科の展開の工夫例(共通導入・共通終末)>

第3学年		第4学年
1 これまでの生活経験を振り返る。 ・分かっていたけれど、きまりを守れなかったことはありますか。		
2 教材文を読み聞かせる。	直接指導	間接指導
3 ○○について考える。 (考える発問を黒板に提示)	間接指導	直接指導
4 ○○について話し合う。	直接指導	間接指導
5 身の回りにはどのようなきまりがありますか。それはどうしてでしょうか。		
6 教師の説話を聞く。		

複式指導の場合は、発問を少なく設定して、直接指導の際の補助発問を活用などの複式指導ならではの工夫も考えられます。



4 学習指導過程の例


多面的・多角的に考えさせる指導の例

(小学校及び義務教育学校前期課程)

- 主題名 「相手の立場を考えて」 B(11) 相互理解・寛容
- 教材名 「すれちがい」(「みんなの道徳 5年」学研)
- ねらい 相手の立場や意見を尊重することの大切さを理解し、相手の立場に立って考えたり、広い心で接したりしようとする態度を養う。
- 本時の展開

	◇主な学習活動と発問 ■予想される児童の反応	指導上の留意点
導入	1. 友達と意見のすれ違いによってトラブルになった経験を出し合う。 2. 学習課題を確認する。	・けんかになった経験などを出させ、自分との関わりで課題を捉えさせる。
展開	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">相手と意見がすれちがったときにはどうしたらよいだろう</p> 3. 教材を読んで話し合う。 (1) よし子とえり子のすれ違いの状況について話し合う。 <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">二人がすれ違っているところはどこですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 30分近くも待ってもえり子がこなかった。 ■ 広場に着いたときよし子の姿が見えなかった。 <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">そのときの二人はどんな気持ちですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 《よし子》誘っておいて、約束を破るなんてひどい。 ■ 《えり子》自分の都合で勝手に2時って決めている。 (2) よし子とえり子はどんな行動をすればよかったかを考える。 <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">二人はどうすればよかったのでしょうか。なぜそうしなかったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 《よし子》電話がくるから1階で待っていればよい。 先に行くことをえり子の母親に伝えればよかった。 ■ 《えり子》買い物に行かなければよかった。 よし子にあきらめず説明すればよかった。 《なぜそうしなかったか》 <ul style="list-style-type: none"> ■ 自分のことしか考えていない。 ■ 相手の気持ちを考えていない。 (3) 相手と意見がすれ違ったときに大事だと思うことを考える。 <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">相手と意見がすれ違ったとき、どんな気持ちが大切だと思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 相手の話を聞く。(思いやりの心) ■ 気持ちを分かってあげる。(相互理解・友情) ■ 怒ったことへ謝る。(謙虚・思慮・反省) ■ 約束を守れなかったことを許してあげる。(寛容) 	・教材の文章量が多いため、事前読みしておく。 ・二人の日記の内容からすれ違いのポイントとなる事実を板書に提示する。 ・二人の気持ちを考えさせることで、互いの思いが理解できないことがすれ違いにつながることに気付かせる。
	4. 本時の学習を振り返る。 <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">これまで、けんかをしたときに、友達の話をきちんと最後まで聞いていなかったけれど、相手の話をきちんと聞くことで、相手を許してあげることができるといことが分かった。これからは、相手の気持ちをよく考えて、許してあげられるようにしたい。</p>	
	5. あいだみつをの「セトモノ」を紹介する。	
	終末	

すれ違いを生み出した、二人の立場や考え方の両面について考えさせることを通して、相手の立場に立って考えることの重要性を見つめさせていこうとした実践例です。
二人の立場から、**人間理解**や**他者理解**、そして**価値理解**を深めていくようにすることが大切です。



POINT①【導入の工夫】
身近な生活のつまずきから問題意識を掘り起こす導入

POINT②【中心発問】
一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させる発問の工夫

多面的・多角的な見方
二人の立場どちらについても、問題点と解決策を考えさせることで、多面的・多角的に考えを深めていきます。

人間理解
私も、ついつい自分の都合で考えてしまうなあ。思い込んでしまうことってあるよね。

他者理解
二人がすれ違わないようにするには、何を大事にするかによって、違ってくるなあ。人によって感じ方も様々ななあ。

POINT③【自己を見つめさせる発問】
本時のねらいとする道徳的価値により深く迫らせるための発問の工夫

価値理解
相手の話をきちんと聞くことにつきるなあ。何よりも、相手の立場や気持ちを考えて、分かってあげようとするのが大事だなあ。

郷土資料を活用した指導の例

(中学校及び義務教育学校後期課程)

- 主題名 「郷土を愛する心」 C(16) 郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度
- 教材名 「だからこの海を」(岩手県版中学校道徳資料集『郷土の明日を見据えて』)
- ねらい 郷土を愛しながら社会に尽くした先人の努力に思いを寄せながら、郷土の発展に努めようとする実践意欲を育てる。
- 本時の展開

	◇主な学習活動と発問 ■予想される児童の反応	指導上の留意点
導入	1. 前時(わかめ作業の知識や時代背景)に学習したビデオや考えを想起し、感想を発表させる。 ■ 困難に負けず続けていてすごい。 ■ 町のために頑張っていてすばらしい。	・前時に見たビデオを振り返り、藤蔵さんの行動についてどう思ったか、発表させ、価値に近づく手助けとする。
展開	なぜ藤蔵さんは郷土の海に対する思いを生涯絶やすことがなかったのだろうか。	
	2. 教材について話し合う。 兵役から戻ってきた藤蔵さんは、どんなことを考えながら、海原や漁民の姿をみつめていたのだろうか。 ■ どうすれば暮らしが楽になるだろうか。 ■ この海を生かして、何かできないものだろうか。 なぜ、藤蔵さんの周りの人たちは、協力、賛同していたのだろうか。 ■ 漁民や地域のために一生懸命な藤蔵さんの力になりたい。 ■ 自分も藤蔵さんを支えることで、地域の人々の暮らしがよくなることに寄与したい。	・漁業を営む上での厳しさも考えさせ、それでも取り組もうとする思いを考えさせる。 ・苦労しながらも、藤蔵が郷土のためにやり続けたことを確認する。
	なぜ藤蔵さんは郷土の海に対する思いを生涯絶やすことがなかったのだろうか。	
終末	■ 故郷の海が大好きである。 ■ 自分のふるさとをさらに発展させたい。 ■ 海の恩恵を受けて生きているという、感謝の気持ちがあった。 ■ 地域のため、地域の人たちのために自分のできごとをしようと考えた。	・小グループで話し合わせた後、ノートに考えを記述させ、生徒の考えをつなぎ合わせながら迫り、共有させる。
	3. 新聞記事を読み、郷土のために努力している地元の人がいることを知る。	・東日本大震災津波の復興に携わった方のインタビュー記事を読み、私たちの郷土に尽くす人が現在いることを実感させる。
	4. 本時の学習を振り返る。 今日は自分の住む地域の人たちのために自分ができることを行う大切さを学びました。これからは、地域のために、自分のできごとを考え、自分から行動していかなければならないと思いました。	・他の生徒の考えを聞くことで、自分の考えを深め、実践意欲をもたせる。
	5. お互いの考えを発表し、交流する。	

総合的な学習の時間の「地域を知る」学習と関連を図り、**計画的、発展的な指導を行った**実践例です。関連のある内容項目を関連させたり、主題を2時間間投いで構成したりするなど、年間指導計画を工夫することによって、効果的な指導が展開できます。



POINT①【導入の工夫】

教材の内容から話し合う方向性を焦点化する導入

POINT②【中心発問】

道徳的価値を多面的・多角的に考えさせるための工夫

話し合いの工夫

生徒相互の対話や協働が、生徒の多面的・多角的な見方への発展を一層促します。座席の配置を工夫したり、ペアでの対話やグループによる話し合いを取り入れたりするなど、工夫しましょう。

POINT③【生活との関連】

道徳的価値を一層主体的に考えさせるための工夫

いわての復興教育との関連

生徒の日常生活における身近な話題や、地域の自然や伝統文化に関することなどに触れることにより、ねらいの根底にある道徳的価値を、生徒が一層主体的に捉え、人間としての生き方についての自覚を深めることにつながります。

道徳的行為に関する体験的な学習を取り入れた指導の例

(中学校及び義務教育学校後期課程)

- 主題名 「個性や立場の尊重」 B(9) 相互理解、寛容
- 教材名 「ジコチュウ」(「中学道徳2 きみが いちばん ひかるとき」光村図書)
- ねらい 互いを尊重する気持ちを深め、よりよく他者と生活していく実践意欲と態度を育てる。
- 本時の展開

	◇主な学習活動と発問 ■予想される児童の反応	指導上の留意点
導入	1. 本時の授業に向けて 友達に言い過ぎてしまった経験について、全体的な傾向と比べながら自分自身の経験を見つめる。 2. 教師が範読する。	・事前にアンケートをとり、その結果をグラフにして提示する。
展開	互いを尊重する時に大切なことは何だろうか。 3. 課題に迫る。 「ジコチュウ!」と吐き捨てるように言ったとき、「僕」はどんな思いだったでしょうか。 ■ 事情が分からず、班長として許せなかった。 ■ 他の仲間が頑張っているのに、その態度に腹が立った。 公園で佐々木さんを見かけたとき、「僕」はどんな思いだったでしょうか。 ■ アイツも家で頑張っているんだ。 ■ 妹や弟がいて大変だな。	・ペアで動作化させる。 ・班長として「僕」のいろいろな募っていることを自分事として捉えさせる。 ・「佐々木さん」の思いについても考えさせる。 ・学校と家庭での彼女のちがいに触れ、僕が学校での一面だけを見て彼女の性格を決めつけていたことに気付かせる。
	手紙を読んだ後、僕はどんなことを考えていたでしょうか。 ■ 自分は何も分かっていなかった。 ■ 言い過ぎたから謝りたい。 ■ 相手を深く知ろうとしなかった。 謝られた佐々木さんはどんなことを考えていたでしょうか。 ■ 自分も自分のことしか考えていなかった。 ■ 相手にきちんと伝えておくべきだった。 ■ 自分も謝りたい。	・考えを記入させた後、役割演技で発表させ、その演技を見て感じたことを話し合わせる。 ・「僕」と「佐々木さん」を演じた人それぞれ感想を尋ねる。 ・問い返しの発問を用意し、お互いの立場を理解した上で寛容の心をもって接することに気付かせていく。
終末	4. 本時の学習を振り返る。 今の生活を振り返って、自分も相手の人間性をきちんと見ないで、決めつけていることが多いなと思いました。また、役割演技をやってみて、「僕」と「佐々木さん」のそれぞれの立場があることがよく分かりました。お互いを尊重するために、これからは、相手のことをよく考え行動できるように、自分の視野を広げていきたいです。 5. 数名に発表させる。	

教材に登場する人物等の言動を即興的に演技したりして考える**役割演技**など疑似体験的な表現活動を取り入れた実践例です。その他にも、具体的な道徳的行為の場面を想起させ追体験するなど工夫も考えられます。



POINT①【導入の工夫】
日常生活の傾向から問題意識をもたせる導入

POINT②【動作化】
登場人物の行為を自分のこととして捉えさせるための工夫

動作化

実際に「僕」や「佐々木さん」のセリフを動作化させることで、言ったとき・言われたときの思いを体感させ、共通理解させます。

POINT③【役割演技】
道徳的行為の場面を即興的に演技させ、道徳的価値を深く理解させるための工夫

役割演技

実際に行うことの難しさとその理由を考えさせ、弱さを克服することの大切さを自覚させます。

体験的な学習を取り入れる際には、単に活動を行って終わるのではなく、生徒が**体験を通じて学んだことを振り返り**、その意義について考えることが大切です。



Ⅳ 評価のポイント

1 道徳科における評価の考え方

児童（生徒）の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める必要がある。ただし、数値などによる評価は行わないものとする。

小・中学校学習指導要領「第3章 特別の教科 道徳」第3の4



Q どうして数値などによる評価は行わないのですか？

A 道徳科が目指す道徳性は人格的特性であり、内面的な資質です。このような道徳性が養われたか否かは、容易に判断できるものではなく、点数や「○×」などで表すことはできないからです。

道徳科では、児童生徒の成長を見守り、努力を認めたり、励ましたりすることによって、児童生徒が**自らの成長を実感し、更に意欲的に取り組もうとするきっかけ**になるような評価を目指すことが求められます。



個々の内容項目ごとではなく、大きくくりなまとまりを踏まえた評価とすることや、他の児童（生徒）との比較による評価ではなく、児童（生徒）がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価として記述式で行うことが求められる。

小・中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編



Q 他教科と同じように観点別評価は行わないのですか？

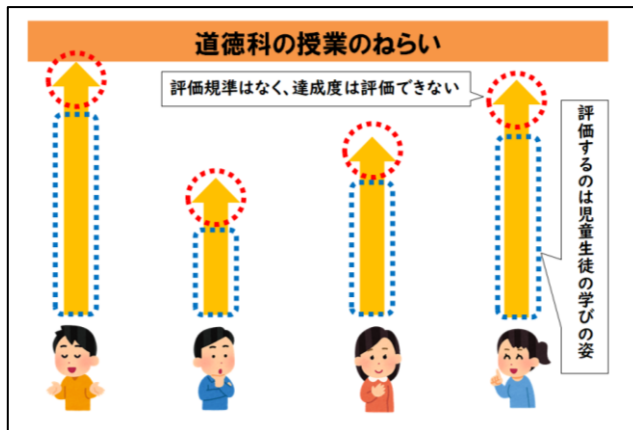
A 他の教科等では、育成すべき資質・能力に基づいて、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の三つの観点で分析的に評価しますが、児童生徒の人格そのものに働きかけ、道徳性を養うことを目標とする道徳科においては、**観点別学習状況評価はなじみません**。また、道徳性を構成する諸様相を分節して評価することもしません。**道徳科では、個人内評価を基本とします**。





Q 個人内評価とはどのようなものですか？

A 児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子はそれぞれ違います。その違いを比較して優劣を決める評価ではなく、児童生徒一人ひとりが**いかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます評価**をしていくことが個人内評価の基本となります。



POINT

教師は明確なねらいを設定して授業に臨みますが、そのねらいをゴールとして児童生徒の評価は行いません。

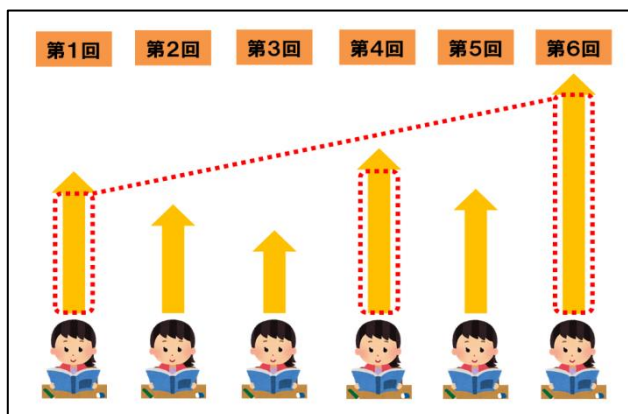
評価するのは一人ひとりの学びの姿です。



Q 大きくりなまとまりを踏まえた評価とは？

A 道徳科は、児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握することが基本となります。

ですから、一つの授業をもって評価するのではなく、**児童生徒の成長を継続的に見取る**ことが大切です。



POINT

児童生徒は、常に右肩上がりに成長するとは限りません。

大切なのは、成長している部分を積極的に受け止めて認め、励ますことです。

【評価の基本的な考え方 チェック!!】

- 数値による評価ではなく、記述式であること。
- 他の児童生徒との比較による相対評価ではないこと。
- 児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価として行うこと。
- 個々の内容項目ではなく、大きくりなまとまりを踏まえた評価を行うこと。
- 調査書に記入せず、入学者選抜の合否判定に活用することのないようにすること。



Q 評価の視点は分かりましたが、どのような方法で評価するのでしょうか？

A 児童生徒の学習の過程や成果などの記録を**計画的にファイルに蓄積**したものや、児童生徒が道徳性を養っていく過程での**自身のエピソードを累積したもの**を評価に活用しましょう。



評価のための具体的な工夫例

- ・児童生徒に学習の過程や成果などの記録を計画的にファイルに蓄積したもの
- ・児童生徒が道徳性を養っていく過程での児童生徒自身のエピソードを累積したもの
- ・作文やレポート、スピーチやプレゼンテーションなど具体的な学習の過程
- ・児童生徒が行う自己評価や相互評価 等

POINT①

校内で評価の視点と方法の方針について、職員会議や校内研修会等でしっかりと共通理解を図ることが大切です。

POINT②

学校の方針が決まったら、学年ごとに評価のために集める資料や評価方法等を共通確認して進めましょう。

3 児童生徒の「困難さ」への配慮



Q なかなか発言できなかったり、書くことが苦手だったりする児童生徒の評価は、どうしたらいいのでしょうか？

A そもそも道徳科では、授業中の発言や書く活動だけをもって評価するものではありません。教師や他の児童生徒の発言にうなずきながら聞き入ったり、メモをとって考えを深めようとしていたりしている姿などに着目するなど、**発言や記述ではない形で表出する児童生徒の姿**に着目することも重要です。



こんな児童生徒はいませんか？

- ◇ 授業中の発言がほとんどない
- ◇ 文章での表現が得意ではない
- ◇ 表情に表れにくい

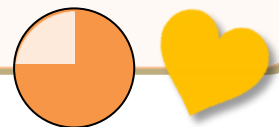
配慮を要する児童生徒

- ◇ 発達障がいのある児童生徒
- ◇ 海外から帰国した児童生徒
- ◇ 日本語習得に困難のある児童生徒等

POINT

学習過程において想定される困難さとそれに対する指導上の工夫が必要です。

- ・役割を交代して動作化、劇化する。
- ・ルールを明文化する。
- ・発声しなくても表現できるツールを活用する。



一人ひとりの学習上の困難さの状況をしっかりと踏まえて、配慮すべき観点等を学校や教員間で共有し、評価することが重要です。

4 通知表と指導要録



Q 通知表と指導要録にはどのように記述するのですか？

A 児童生徒の**継続的な学習状況**や**道徳性に係る成長の様子**について記述することが基本となります。通知表も指導要録も基本的に考え方は同じです。ただし、通知表については、学校によって様々な工夫が考えられます。下記を参考にしてみてください。



通知表における評価の書き方のメリットとデメリット

ア 大きくりなまとまりの評価の一例

道徳の学習を通して、登場人物に自分を置き換えて生活を振り返ったり、友達の考えを聞いて一つのことを様々な見方で捉えたりして、今後のよりよい生き方について考えを深められるようになりました。

○継続的な成長の様子は伝えられますが、保護者や児童生徒には、抽象的で伝わりにくい。

イ 特定の授業を取り上げた評価の一例

「〇〇（教材名）」では、社会の中におけるきまりについて考え、これまでの自分の体験を想起しながら、自分のことだけでなく、周りの人のことも考えて行動することの大切さに気付いていました。

○保護者や児童生徒に、具体的な学習状況が伝わりやすい反面、本来の目的である継続的な成長の様子が見えない。

そこで…

工夫例 その1

例えば、保護者や児童生徒によさや頑張りを具体的に伝えるために、大きくりなまとまりの評価と、特定の授業場面を取り上げた評価の2点を記述することも考えられます。

工夫例 その2

例えば、学期で、大きくりなまとまりの評価と、特定の授業場面を取り上げた評価に分けて、段階的に記述するなどの工夫も考えられます。

評価は、教師から児童生徒へのプレゼントです！

5 評価をする教師の心構え

道徳科の評価の根底にあるのは、教員と児童生徒との人格的な触れ合いによる共感的な理解が存在することです。教師には次の心構えが求められます。

- 全ての児童生徒には「よりよく生きようとする力」があるという信念をもつ。
- 児童生徒の成長を心から信じ、願う姿勢をもつ。
- 児童生徒の人格を尊重し、惜しみない愛情を注ぐ。

児童生徒一人ひとりに金メダルをあげるような評価をしましょう！



V Q&A



Q1 教科書は必ず使わなければならないのでしょうか？教科書のほかに、地域教材を活用してもよいのでしょうか？

A 他教科と同様、道徳科においても、**主たる教材として教科用図書を使用することが原則**となります。ただし、道徳教育の特性を踏まえ、各地域に根ざした地域教材など、多様な教材と併せて活用することを妨げるものではありません。学校の方針により、**年間指導計画に位置付けて地域教材を効果的に活用**してください。



Q2 評価するために、書く活動を必ず取り入れた方がよいのでしょうか？

A 書く活動は、必ず取り入れなければならないというのではなく、児童生徒が自ら考えを深めたり、整理したりするための**指導方法の工夫の一つ**です。書いた内容を蓄積していくことで、児童生徒の学習を継続的に深めていくことができ、成長の記録として活用したり、評価に生かしたりすることもできます。

ただし、**書く活動のみをもって評価するというのは妥当ではありません**。道徳科においては、児童生徒の発言やつぶやき、その他の反応を含め、学習活動全体を通じて評価することが基本となりますのでその点は留意してください。



Q3 道徳科の授業は必ず担任が行った方がよいのでしょうか？

A 児童生徒の実態を最も把握しているのは担任です。それを踏まえて、授業の中で意図的に取り上げたり配慮したりできるのは担任ならではの利点です。学習指導要領において、原則として「学級担任が計画的に進めるもの」とされているのはこのためです。

ただし、道徳科の指導体制を充実するための方策として、**教職員それぞれの得意分野を生かした指導を行うなど、学校全体で協力して指導に当たる工夫の重要性**についても、学習指導要領では示しています。

複数の教員で道徳科の授業を担当するローテーション授業の取組などが県内でも見られるようになってきました。こういった取組も、教科担任の得意分野を生かし、教職員が協力して指導に当たる工夫の一つと言えます。

教職員間で道徳科の特質を十分に理解し、事前に評価の考え方や視点について共通理解を図った上で、**学校全体の指導体制として実施することが大切**です。

Ⅵ 研究指定校の実践例

雫石町立雫石中学校

研究主題

人間としてのよりよい生き方を共に考え、語り合う生徒の育成
～道徳科における思考の深化を図る対話の充実と指導の工夫～

1 研究主題設定の理由

科学技術の発展、社会や経済が著しく変化する社会の中で、子供たちにとっては、これから出会うであろう、答えのない問題に対して、様々な文化や価値観を背景とする人々と、相互に尊重しながら納得解を見出して生きていくことが求められる。

「特別の教科 道徳」の目標の中には、「物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める」とあり、広い視野から多面的・多角的に考えるためには、他者との対話は欠かせないものと考えられる。

本校の生徒は、明るく、大きな声であいさつができる。始業2分前の着席を守り、時間いっぱい清掃に取り組み、公共のものを大切に扱っている。生徒会活動、委員会活動を通して、積極的に皆のために活動することに積極的である。部活動にも積極的に取り組み、体力の向上に努めている。一方、相手の立場で考えて話をしたり行動したりすることや、感謝の気持ちを表したり自分で考えて行動したりすることについては課題が見られる。

そこで、道徳科の授業において、道徳的価値に向き合い、他者と協働しながらよりよい生き方を考えていく生徒の学びを目指し、各学年年間35回の道徳科の授業の質をより高めていきたい。そのためには、全教師が協力し合う指導体制を確立することが重要であり、全ての教師が協力し合うことで、授業の質の高まりと、一人一人の教師の個性や得意分野を生かした指導が可能になると考える。

これらのことから、自ら感じ、考え、他者と対話し、協働しながらよりよい方向を目指す生徒を育てる観点から本主題を設定した。

2 研究の目標

- ① ローテーション方式の指導体制を組織することにより、道徳科の授業改善に対する意識の向上を図る。
- ② 教師の授業実践を積み重ねることによって、生徒の対話の充実を図り、よりよい生き方についての考えを深める生徒を育成する。
- ③ 共通理解に基づいた指導と評価の一体化を通して、評価の妥当性と信頼性の向上を図る。

3 研究仮説

道徳科の授業において、組織的な指導の工夫を図り、生徒の思考が深める対話が充実するよう授業づくりを工夫することによって、人間としてのよりよい生き方を共に考え、語り合う生徒が育つであろう。

4 研究の視点

(1) 研究の視点①「組織的な指導の工夫」

これまでの「道徳の時間」では、授業の適切な実施の観点から、特定の曜日の全校同一の固定時間に位置付けていた。しかし、全教員体制の下で質の向上を目指した授業改善が図られるよう、「ローテーション授業」方式で組織的な指導体制を整備することとした。

ローテーション授業により期待される効果

- 教師が道徳授業に関わろうとする意識が高まる。
- 担当する全教師の、指導方法等の学び合いが促される。
- 改善を重ねた授業を経験することによって、生徒の対話が充実し、考えが深まる。
- 道徳科推進に関わる教材等の情報の交換と活用が活発になる。
- 評価方法について共通理解が図られ、評価の妥当性、信頼性が向上する。

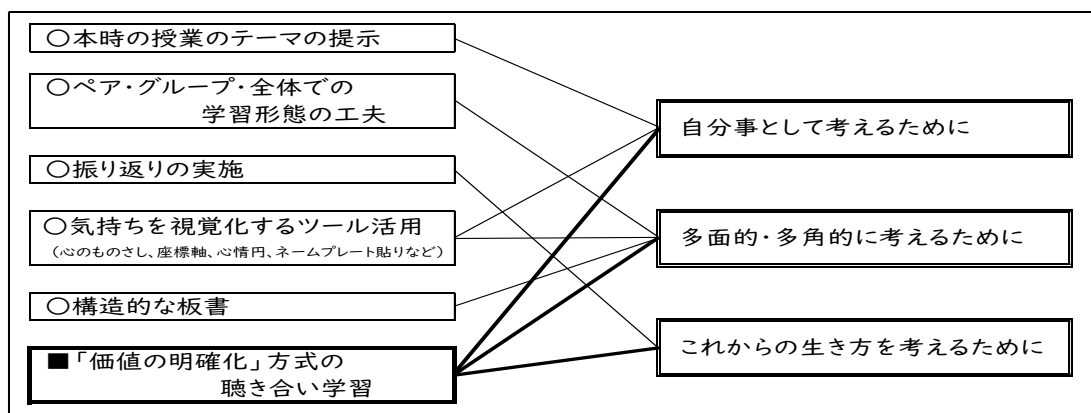
本校のローテーション授業の体制

- 水曜日の1校時を道徳科とすること。
- 生命や家族に関わる内容項目である場合、生徒の生育歴や家庭環境を理解している担任教師が授業を行うこと。(以降、本校では「担任教材」と呼ぶことにした。)
- 教師のローテーションによるクラスの進度の違いは、2ヶ月以内にとどめるよう編成すること。
- 学年のローテーションの編成に課題がある場合は、速やかに改善を図ること。

(2) 研究の視点②「生徒の思考の深化を図り、対話を充実させる授業づくり」

対話の出発点は、問題について自分事として捉えたときである。生徒にとって自分事こそ、明確に他者に伝えることができる。他者の考えを聴き、他者と自分を比べて、その違いから新たな問題意識が生まれる。この問題意識が、道徳的価値について個々の考えの深まりや広がりをもたらし、多面的・多角的に考えることができるようになる。

本校では、3つの視点（「自分事として考える」、「多面的・多角的に考える」、「これからの生き方を考える」）において、以下の5つの方法（○印）を取り入れた。「価値の明確化」方式の聴き合い学習については、10月から授業づくりに取り入れた。



(3) 評価の視点と方法の共通理解

評価の視点に基づいて、どのような生徒の学習状況を継続的に見取っていくかについて共通を図るために、校内研修会を位置付けた。さらに、評価の妥当性や信頼性を担保する資料として、共通の学習シートを作成し蓄積していくことにした。

5 実践

(1) 組織的な指導の工夫 ～ローテーション授業～

① 第1学年のローテーション編成

- 第1学年の教師は、担任4名、副担任3名の計7名。
- 月一回の「担任教材」については、学年内の道徳担当教師が、授業の一週間前から教材について内容項目や授業の進め方についての案を示したり、紙板書を作成したりするようにした。

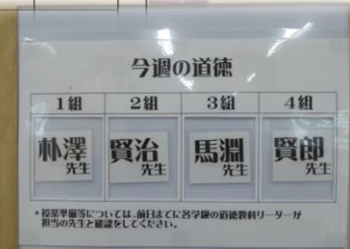
		1組	2組	3組	4組
5月	1~3週				
	4週	① 1組担任	① 2組担任	① 3組担任	① 4組担任
	5週	2 副担任A	4 副担任B	5 副担任C	6 3組担任
6月	1週	4 副担任B	2 副担任A	6 3組担任	5 副担任C
	2週	5 副担任C	6 3組担任	2 副担任A	4 副担任B
	3週	③ 1組担任	③ 2組担任	③ 3組担任	③ 4組担任
	4~5週				
		1組	2組	3組	4組
7月	1週	6 3組担任	5 副担任C	4 副担任B	2 副担任A
	2週	7 副担任A	8 副担任B	9 2組担任	11 副担任C
	3週	⑩ 1組担任	⑩ 2組担任	⑩ 3組担任	⑩ 4組担任
	4~5週				
		1組	2組	3組	4組
8月	1~3週				
	4週	8 副担任B	7 副担任A	11 副担任C	9 2組担任
	5週	9 2組担任	11 副担任C	7 副担任A	副担任
		1組	2組	3組	4組
9月	1週	⑮ 1組担任	⑮ 2組担任	⑮ 3組担任	⑮ 4組担任
	2週	7 副担任A	8 副担任B	9 2組担任	副担任



② 第2学年のローテーション編成

- 第2学年の教師は、担任4名、副担任2名の計6名。
- 第2学年の教師は、初任者をはじめとする若手教師と経験豊富な中堅教師で構成されていることから、若手と中堅がペアを組み、一つの教材について解釈し、進め方などを相談して授業を行うようにした。ペアを組んだ教師は、同時帯に異なるクラスで授業を行い、翌週は、他の2クラスで二人のそれぞれの教師が授業を行う方法をとった。

		1組	2組	3組	4組
5月	3週	担任 三百六十五×四回分の「ありがとう」 【家族愛 家庭生活の充実】			
	4週	担任 テニス部の危機 【よりよい学校生活、集団生活の充実】			
5月	5週	4組担任	1組担任	2組担任	2組担任
6月	1週	副担任A	副担任B	4組担任	1組担任
	2週	2組担任	3組担任	副担任A	副担任B
		1組	2組	3組	4組
9月	1週	4組担任	3組担任	副担任A	副担任B
9月	2週	1組担任	2組担任	4組担任	3組担任
9月	3週	副担任A	副担任B	1組担任	2組担任
9月	4週	副担任B	1組担任	2組担任	4組担任
10月	1週	3組担任	副担任A	副担任B	1組担任
10月	2週	2組担任	4組担任	3組担任	副担任A
	教材	チーム			
		若手	中堅		
	夢中になるのは悪いこと? 【節度、節制】	1組担任	4組担任		
	友達はライバル 【友情、信頼】	2組担任	3組担任		
	雪に耐えて梅花麗しー黒田博樹 【希望と勇気、克己と強い意志】	副担任B	副担任A		
	教材	チーム			
		若手	中堅		
	つながる命 【生命の尊さ】	副担任B	4組担任		
	段ボールベッドへの思い 【勤労】	1組担任	3組担任		
	スカイツリーにかけた夢 【真理の探究、創造】	2組担任			
	教材	若手	中堅		
	夢を求めてパラリンピック 【生命の尊さ】	副担任			
	秀さんの心 【礼儀】	1組担任			
	ちがいの意味を見直す 【社会参画、公共の精神】	2組担任			



③ 第3学年のローテーション編成

○第3学年の教師は、担任4名、副担任2名の計6名。

○「担任教材」と他の教材を区別することなく全教員のローテーションで授業を計画した。

第3学年 道徳ローテーション計画

		1組	2組	3組	4組			1組	2組	3組	4組
5月	1-3週					8月	1-3週				
	4週	6 副担任A	1 2組担任	3 3組担任	4 4組担任		4週	9 1組担任	11 副担任B	7 4組担任	10 副担任A
	5週	1 2組担任	6 副担任A	2 1組担任	5 副担任B		5週	7 4組担任	12 3組担任	10 副担任A	8 2組担任
6月	1-2週	4 4組担任	2 1組担任	6 副担任A	5 副担任B	9月	1週	14 副担任B	13 2組担任	15 1組担任	7 4組担任
	3週	5 副担任B	4 4組担任	1 2組担任	6 副担任A		2週	18 3組担任	16 4組担任	13 2組担任	17 副担任A
	4週	10 副担任A	3 3組担任	4 4組担任	1 2組担任		4週	15 1組担任	18 3組担任	17 副担任A	13 2組担任
	5週	3 3組担任	10 副担任A	5 副担任B	2 1組担任		5週	16 4組担任	副担任B		
7月	1週	2 1組担任	11 副担任B	3 3組担任	7 4組担任	10月	1週	13 2組担任	1 1組担任		
	2週	12 3組担任	8 2組担任	9 1組担任	11 副担任B		2週	17 副担任A	副担任B		
	3週	11 副担任B	12 3組担任	2 2組担任	8 1組担任		3週				
	4週	8 2組担任	9 1組担任	11 副担任B	12 3組担任		4週	21 1組担任	2 2組担任		
						5週	16 4組担任	3 3組担任			

※道徳の曜日は固定ではなく、担当者が全員そろっている日、時間とする。
※副担任B(進路指導主事)は、10月中旬からローテーションから除く。

ローテーション授業の成果と課題

- 授業の時期は、ほぼ年間指導計画通りに実施され、ずれがほとんど生じない。
- 自分の得意分野や経験に関わる教材で選択でき、得意分野を生かすことができる。
- 学年の生徒の学習状況を共通理解することができる。
- 道徳の授業づくりについて、学年団の相談体制が生まれ、授業改善の風土が生まれる。
- 評価の視点と方法について、全教員で共通理解していないと、評価にずれが生じる。

(2) 生徒の思考の深化を図り、対話を充実させる授業づくり

① 実践例Ⅰ「第1学年」

ア 教材名「ヘレンと共に -アニーサリバン」(光村図書) A 希望と勇気、克己と強い意志
イ ねらい

ヘレン・ケラーを支援したアニーサリバンの物語を通して、困難に直面しても、信念をもって自らの仕事に取り組むことの大切さについて考えさせ、自分も目標に向かって努力しようとする実践意欲と態度を育てる。

ウ 授業づくりの工夫

- ◎ 事前に、人物について大まかに理解する時間をとった。
- ◎ 資料は事前に読ませ、考え、対話する時間を十分確保できるようにした。
- ◎ 話し合いを進めやすい3~4名の8グループ構成とした。
- ◎ テーマを生徒にわかりやすい表現にし、最初に提示した。【あきらめない心】
- ◎ 全ての生徒が「心のものさし」に付箋を貼ることで、生徒全員の参加を促し、自分と他の考えの違いや変化が見えやすいようにした。
- ◎ 教科書にはない、実話を紹介してテーマについての考えを深められるようにした。



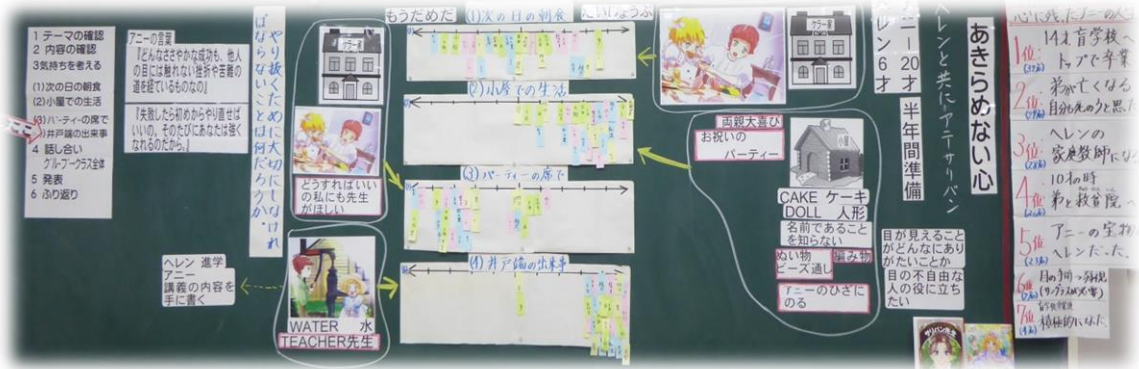
心のものさし



心のものさしに付箋を貼る生徒



発表する生徒



本時の板書

エ 生徒の振り返り

- ◇あきらめる前に行動することや、勇気、努力についてもっと考えようと思った。
- ◇友達が「やり抜く方法」をたくさん考えていてすごかった。「努力」「自信」「勇気」「やる気」という言葉が心に残った。
- ◇僕は、「自分がやり抜くために大切にしなければいけないこと」は前向きな気持ちだと考えた。友達の考えでは、何事もあきらめず、努力するという考えが出て、僕もそれに納得し、共感した。僕はこの考えをもとに、何か挑戦するときがあったら、前向きな気持ちや、何事もあきらめない、ということを大切にしていきたい。
- ◇サリバン先生は、どんなに難しいこともあきらめず、努力していました。私も今までの生活を見直し、あきらめず努力しようと思いました。そして、人のことを考えられるような人になりたいと思った。
- ◇自分のやれることを大切に、最大限まであきらめなくてやるのが大切だとわかった。勇気をもって行動することも大切だと思った。

オ 成果と課題

- 道徳的価値について、生徒が自分事として捉える姿が見られた。
- 「心のものさし」に自分の気持ちの付箋を貼ることで、考えの変化が見取りやすかった。
- 「心のものさし」を見ることで、生徒が多面的・多角的に見方を広げることができた。
- テーマを最初に提示することによって、何をつかませたかが明確になった。
- 「心のものさし」は4つ使ったが、ポイントを絞って貼らせた方が良かった。
- 「あきらめない心」は大切だがやり抜くことは大変である、という人間の弱さ(人間理解)についてもっと考えさせることが必要であった。
- ヘレンの立場や、サリバン先生の立場になって、実際に手のひらに文字を書く場面があると考えが深まる。
- 友達のところに行って話を聞く場合は、自分が好きな人ではなく、誰に聞きに行くか決めて行かせた方が良かった。

② 実践例2「第2学年」

ア 教材名「秀さんの心」(光村図書) B 礼儀

イ ねらい

職場体験で、心のこもった礼儀の在り方にふれた2人の生徒の物語を通して、礼儀の意味について考えさせ、時と場になつた適切な行動をとろうとする実践意欲と態度を育てる。

ウ 授業づくりの工夫

- ◎ テーマを最初に黒板の中央に提示した。
- ◎ 話し合いを進めやすい3~4名の8グループ構成とした。
- ◎ 礼儀とは、「相手とよい距離を保つために必要なもの」と捉えて授業を構成した。
- ◎ 最初と最後に同じ発問をして、生徒の考えの深まりを把握することにした。
- ◎ 授業の中で、実際におじぎをする場面を位置付けた。
- ◎ 場面で区切り、心情を捉えやすくした。



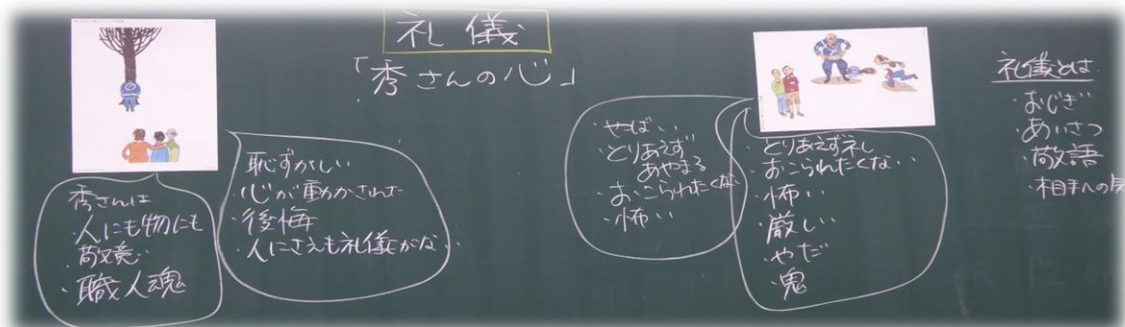
動作化をして考える生徒



おじぎを動作化する生徒



発表する生徒



本時の板書

エ 生徒の振り返り

- ◇自分は相手のことより、自分を優先してしまうことがあるので、視野を広く持ち、誰にでも「ありがとう」と言える人になりたい。
- ◇「何かをしてもらったらありがとう」ではなく、「あたり前なこともありがとう」という気持ちをもつこと。自分に関わる全てのモノに感謝、尊敬することだと思った。
- ◇いつもはおじぎも挨拶も適当だったが、秀さんが考える礼儀のことを思うと、そんなことをやっている自分が恥ずかしくなった。
- ◇礼儀とはお世話になったり使ったりしたものに対する感謝を行動に移すこと。これからは、礼儀について深く考えて行動したい。
- ◇自分は恥ずかしがったり、何かしらの理由を付けて逃げてしまったりするので、秀さんのように、常に感謝の気持ちを行動に表していきたい。

オ 成果と課題

- テーマ発問で始まり、テーマ発問で終わることにより、生徒は道徳的価値について自分事として考えを深めようとする姿が見られた。
- テーマを中心にして板書を構成したため、生徒の思考が整理させることができた。
- 「おじぎ」の動作化により、生徒が礼儀の大切さについて理解を深めようとしていた。
- 中心発問から補助発問(つなぐ、広げる、深める)へのつながりが効果的であった。
- 生徒がメモに集中し、書くことが主になってしまった。対話や議論をもっと位置付けた方がよかった。
- 教材を区切る手法にはよし悪しがあり、今回の場合は範読で展開する方が良かった。
- 多面的・多角的に考えさせるために、ホワイトボードを活用するなど、全員で交流させる手立てが必要であった。
- それぞれの登場人物の「おじぎ」についてもっと深めていけばよかった。

(3) 評価の視点と方法の共通理解

① 校内研修

全教員の評価に対する共通理解を図るため、実際の生徒の振り返り等を基に、どこをどのように評価するのかを考えるワークショップ型の校内研修を位置付け実施した。



② 学習シート

毎時間の授業で、「自分が思ったこと・考えたこと」、「心に残った友達の考え」、そして「授業をふりかえって・・・」の欄に記入させるようにし、本シートを蓄積するようにした。

3年道徳「きみがいちばんひかるとき」		3年 組 番名前					
		授業の中で		授業をふり返って (A～Cのうち、今日一番力を入れたことについて書きましょう。)			
		自分が思ったこと 考えたこと	心に残った友達の 考え 自分と同じ・ちがう 考えて心に残った こと	A 自分をふり返っ たり解決を考えた りしながら今日のテ ーマについて深く考 えることができた。	B 友達の考えを聞 いたり、別の見方に 気づいたりしながら、 自分の考えを広げ ることができた。	C これから自分 はどのようにしてい かかえることがで きた。	
シ ー ズ ③	1 9	闇の中の炎 【国の伝統と文化】			<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・ A、B、Cのうち、授業で自分が一番力を入れたと思う欄に振り返りを記入する。</p> <p>・ 生徒は「A 自分」と「C これから」の2つに力を入れたと思う時は、AとCの2つの欄に記入してもよい。</p> <p>・ 蓄積された生徒の記述の様子から、その生徒がA、B、Cのどの項目についての記述が多いかに着目し、1段落目の評価文を作成する。</p> </div>		
	2 0	サグラダファミリア 受け継がれていく思い 【感動・畏敬の念】					
	2 1	先人の言葉「論語」 【向上心・個性の伸長】					
	2 2	私が目ざした白 【真理の探究、創造】					
2 6	恩讐の彼方に 【相互理解・寛容】						

*学んだことを書きましょう。
(心に残っていること、考えが広がったこと、これからこんなふうにしていきたい。…など。)

【一番心に残っている内容】

上記A、B、C欄の記述の様子と、一番心に残った授業の記述の内容を合わせて、評価する。

私は、魚の涙が一番心に残っています。なぜかと言うと、同じ人間どうしなのに、人もいじめたりする。それが、魚の世界でもおこっていることを知ったからです。私の今回のこの授業で人間はなぜ同じ人間をいじめちゃうのか。いじめをなくすためにはどうしたらいいかなどを考えました。そのとき、人は魚と違って感情があるから、いじめを止められることができる。もし、周りでそのような場面を見たら、自分から止めたいと思いました。

③ 通知表及び指導要録の評価文

本校では、通知表と指導要録における評価の記述については、2段落構成として、以下のよう記述することにした。

通知表の評価について

● 1段落目（指導要録はこのみを記述）

年間を通して成長が見られた授業での成長や学習状況について記述する。

※評価の視点

A 道徳的価値を理解しようとしているか（自分との関わりの中で）。

B 多面的・多角的に考えているか。

C 自分の生き方について考えを深めようとしているか。

● 2段落目

成長が見られた授業の中で、特に顕著と認められる具体的な状況を記述する。

6 研究の成果

(1) 生徒の意識や学習状況から

道徳科の授業で、自分と向き合い、友達の意見から視野を広げ、これからの自分について考えることができたという生徒が増えた。道徳科の良さについては、「自分の考えをもつことができるようになった」、「様々な考え方があって知って、自分の考えを広げたり深めたりすることができた」、「自分がこれからどうすればいいか自分で考えることができた」など授業を重ねたことによって成長できたことについて実感する生徒が増えた。

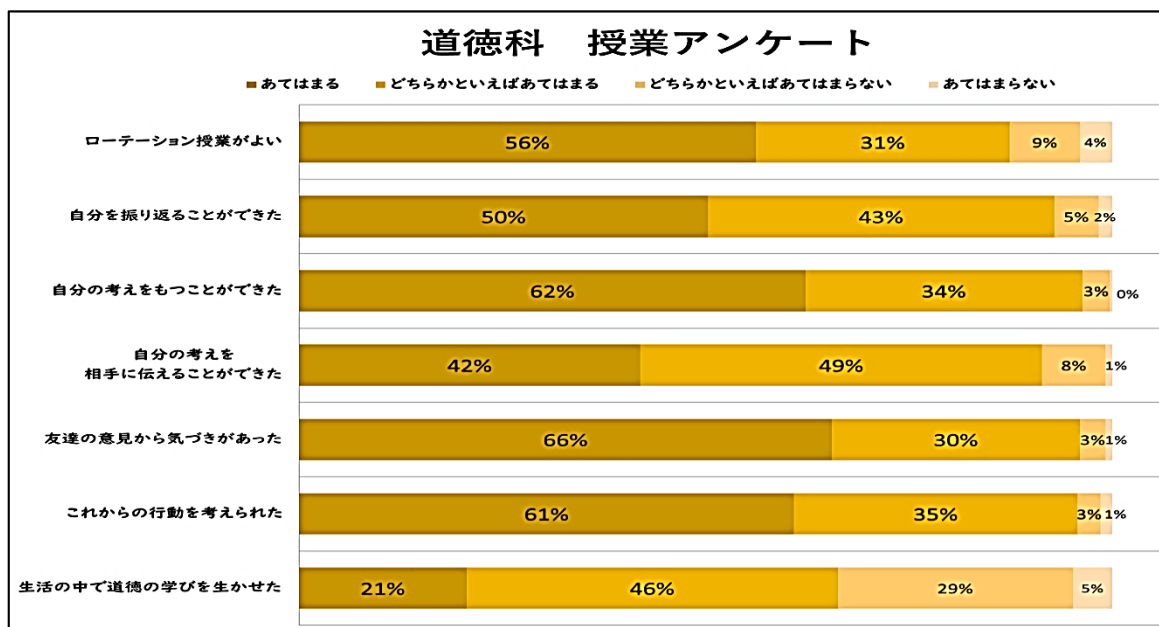
(2) 教員の授業改善の観点から

今年度の取組を通して、教員全員の道徳科の授業改善が前向きになった。特に、担任外の教師も含めてローテーション授業に取り組んだことは、生徒の新たな一面に気付くことができ、生徒理解を深めるきっかけになった。

ローテーション授業は、同じ教材で複数回の授業を行うことができるだけでなく、お互いの授業の工夫を学び合う機会も増えるため、授業力向上という面で効果的である。

(3) 今後の取組について

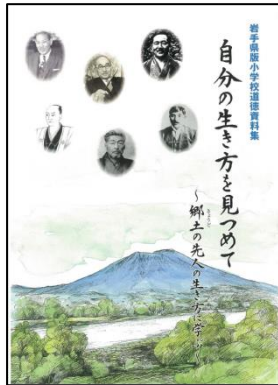
道徳教育全体計画を再度見直し、本校の重点目標に向けて、さらに効果的な教育活動を編成していきたい。道徳科の授業においては、評価の視点を授業づくりの中核に据えた改善を図ってきたい。



VII 道徳科で活用できる読み物資料

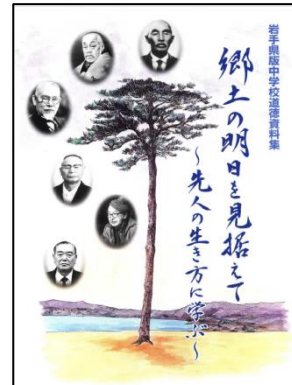
1 岩手県版道徳資料集

【小学校版】



自分の生き方を見つめて
~郷土の先人に学ぶ~

【中学校版】



郷土の明日を見据えて
~先人の生き方に学ぶ~

岩手県教育委員会ホームページ

<https://www.pref.iwate.jp/kyouikubunka/kyouiku/gakkou/shouchuu/1006363/index.html>

2 文部科学省作成教材

(1) 読み物資料集



(2) わたしたちの道徳



文部科学省ホームページ

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/doutoku/index.html

3 いわたの復興教育副読本

【小学校・低学年用】

【小学校・高学年用】

【中学校用】



令和2年度「いわての復興教育副読本」（発行予定）

岩手県教育委員会ホームページ

<https://www.pref.iwate.jp/kyouikubunka/kyouiku/gakkou/fukkou/1006326.html>

4 各地域で活用されている地域教材

市町村教育委員会	資料名
盛岡市教育委員会	盛岡の先人たち（盛岡市小学校長会 発行） 副読本 盛岡の先人（盛岡市中学校長会 発行）
花巻市教育委員会	小学校のための宮沢賢治
奥州市教育委員会	奥州市訪ね歩き 第3集「先人に学ぼう」
一関市教育委員会	ことばのテキスト「言海」中学年「先人について知ろう」 ことばのテキスト「言海」高学年「先人について知ろう」
二戸市教育委員会	二戸の先人たち

5 県内の教育団体が発行している教材

(1) 岩手県道徳教育研究会

- ・岩手県道徳教育郷土教材集「ふるさと いわたの心」

小学校・低学年編

小学校・中学年編

小学校・高学年編

中学校編

(2) 日本教育会岩手県支部

- ・岩手の先人（第1集～第6集）

編集委員一覧

盛岡教育事務所	指導主事	八ツ役 真 司
中部教育事務所	主任指導主事	平 賀 英 和
県南教育事務所	指導主事	松 本 孝 嗣
沿岸南部教育事務所	主任指導主事	田 畑 周 哉
宮古教育事務所	指導主事	信 夫 辰 規
県北教育事務所	主任指導主事	三 浦 英 浩
学校教育課	指導主事	後 澤 大 世

<研究実践校>

雫石町立雫石中学校	教諭	釜ヶ澤 和 泉
雫石町立雫石中学校	教諭	朴 澤 かおり

いわて道徳教育ガイドブック

令和2年3月発行

岩手県教育委員会事務局学校教育課

〒020-8570 岩手県盛岡市内丸 10-1

※本ガイドブックは、岩手県教育委員会ホームページにも掲載しています。

URL：<https://www.pref.iwate.jp/kyouikubunka/kyouiku/gakkou/shouchuu/1006363/index.html>

いわて道徳教育ガイドブック

MORAL EDUCATION GUIDE BOOK

「特別の教科 道徳」(道徳科)を要とした道徳教育の充実を目指して

